

初秋号

訪看便い

このお便りでは、当院 4 階病棟を退院後、当ステーションが介入している患者様に関しまして、その後のご自宅での様子を報告させていただきます。

4 階病棟 1 月退院 A 氏(女性) 主病名:大発作持続状態

【入院中の経過】 担当:福波

前回初夏号でお伝えした通り、2025 年 3 月に低ナトリウム血症の診断で入院。NaCl の内服と飲水制限行い、Na 値改善。振戦や小刻み歩行あり、神経内科受診したがパーキンソン病は否定。症状改善し 4 月 23 日自宅退院の運びとなりました。

【退院後、ご自宅での経過】

週 1 回の介入で全身状態の観察、食事・水分摂取量の確認、排便状況の確認、内服薬の確認、入浴介助等行っておりまして。茅ヶ崎在住の長女が、仕事終わりに本人宅に来て、洗濯や掃除、食事の用意等を行い、一人暮らしをしていました。退院後、症状悪化なく過ごされていましたが、7 月 16 日長女の夫より、長女が精神的に疲弊して本人を施設に入所させたいとケアマネジャーに連絡がありました。ケアマネジャーから連絡を受け、本人宅に伺うと長女の表情乏しく、自身を責める様子も見られ、本人と早急に距離を取る必要があると考え、当院に連絡。翌日急遽入院の運びとなりました。スピーディな対応をしていただいたことで、長女の精神的な助けになったと思われます。迅速な対応ありがとうございました。

これってどうなの？

訪看 Q&A

- Q.要支援の人でも、利用できる？
- Q.医療処置が無くても受けられる？
- Q.夜間の緊急対応は可能？
- Q.退院後の生活がなんとなく不安…
- Q.急遽退院が決まったので、生活が安定するまでの短期介入は出来る？
- Q.どんなことをしてもらえるのか、詳しい説明を聞きたい

A.全部、お受けできます!!

- ・ちょっと不安…くらいで全然 OK!
- ・問題が無さそうに見えても、退院後の生活の中で課題が見えてくるケースも多いです
- ・お気軽に、ご相談ください



訪看便り



このお便りでは、当院 5 階病棟を退院後、当ステーションが介入している患者様に関しまして、その後のご自宅での様子を報告させていただきます。

5 階病棟 7 月退院 A 氏(女性) 主病名:アテローム血栓性脳梗塞

【入院中の経過】 担当:福波

2024 年 12 月から 2025 年 7 月まで入院。入院中に 2 回脳梗塞繰り返し、加療行いました。

退院時、JCS I-1、両上下肢 MMT4~5 レベル。院内 ADL は終日車椅子。入院中、自己トランスでの転倒歴あり、離床はデイルームで行っていました。同居の長女に介護指導行い、自宅退院の運びとなりました。

【退院後、ご自宅での経過】

退院後は訪問看護と訪問看護からのリハビリに伺っております。

看護は、1 回 60 分週 2 回、全身状態の確認、シャワー浴介助、排便コントロール、再発予防行動指導等で介入しています。シャワー浴はできるところはなるべく行ってもらえるよう声掛けしています。

排便は、腹部の確認と下剤の使用法について助言行い、長女が下剤を調整し、現在コントロール良好です。

リハビリでは、自宅内のリハビリから開始し、現在、階段昇降訓練や近くの公園まで屋外歩行訓練行っております。自宅内で車椅子使用しており、ブレーキ忘れみられ、注意喚起しています。

ひきつづき自宅で安心して過ごせるよう援助させていただきます。

5 階病棟 6 月退院 B 氏(男性) 主病名:心原性脳塞栓症

【入院中の経過】 担当:小川

仙骨部に持ち込みの大きな褥瘡があり、両下腿には表皮剥離多数。肺炎からの熱発を繰り返しており、酸素投与が必要な状態。NG チューブや Ba 留置、血糖管理等、医療処置が多く必要な方でした。ご家族様から「家が大好きな人だったから、家で看取りたい。」との希望があり、NG チューブを抜去し、ご自宅に退院されました。

【退院後、ご自宅での経過】

元々は奥様と 2 人暮らしでしたが、次男夫婦が泊まり込み、奥様と交代でご本人の介護を行いました。奥様には「最後は隣に居たい」との希望があり、リビングにあるご本人のベッド横に簡易ベッドを置き、一緒に過ごされていることが多かったです。サービスとしては、週 1 回の往診、1 日 2 回ヘルパーと当ステーションが介入しています。吸引や点滴交換等の処置を次男夫婦に指導し、介入の無い夜間や朝方に対応していただきました。退院 5 日目には親戚がご自宅に集まり、大好きだったお酒を少し口にしています。その後、徐々に覚醒が悪くなっていきましたが、吸引等の苦痛を伴うケアに関しては嫌がる様子があった為、ご家族様と相談し、ご本人の安楽を優先して無理に嫌がることを行わない方針となりました。亡くなる前に見られる兆候や体の変化について指導をした 3 日後、退院から 11 日目の朝に徐々に呼吸が止まり、ご家族が見守る中、心不全によりご逝去されました。ご家族様と一緒にお身体を拭かせていただき、奥様の選んだ一張羅を着せ、集まった親戚の方々と、ご本人との思い出話に花を咲かせました。苦しみ様子なく逝くことができ、最期の時に傍に居たいという奥様の希望も叶い、大好きな家に連れて帰ることが出来て良かったとの発言が、ご家族様から聞かれました。





初秋号

訪看便り

このお便りでは、当院 6 階病棟を退院後、当ステーションが介入している患者様に関しまして、その後のご自宅での様子を報告させていただきます。

6 階病棟 8 月退院 A 氏(男性) 主病名: 廃用症候群

【入院中の経過】 担当: 福波

2025 年 2 月腹部大動脈瘤破裂で市大センター病院にて加療。人工血管感染による腸管壊死で結腸ストーマ造設。長期療養の筋力低下著明でありリハビリ目的で当院に入院となりました。リハビリでは徐々に ADL 上げ、歩行自立となりました。内服は自己管理 3 日間まで行いました。ストーマの管理は、装具交換は自身で困難であり、便破棄のみ自身で行っています。ADL 自立し自宅退院の運びとなりました。

【退院後、ご自宅での経過】

退院当日に COVID 陽性となりましたが、退院。退院当日、緊急で訪問しております。発熱・咳嗽あるものの食事は摂れ、自宅で療養し症状悪化なく軽快となりました。ストーマの装具交換は、訪問前にシャワー浴自身で行ってもらい、看護師が週 2 回訪問し実施しております。ストーマの血色も良く、周囲の皮膚もトラブルなく経過しています。病棟で周囲に補強テープ使用していましたが、本人と相談し徐々に減らし、現在は貼付しておりません。内服は服薬カレンダーの使用を開始し、看護師がセットしたものを内服してもらっています。病院受診についても適宜助言しています。ひきつづき自宅で安心して過ごせるよう援助させていただきます。

6 階病棟 2 月退院 B 氏(男性) 主病名: 右小脳アテローム血栓性脳梗塞

【入院中の経過】 担当: 福波

2024 年 10 月 4 日体調不良あり救急要請。上記診断で当院入院。急性期治療経て、回復期病棟へ転棟。昼夜逆転見られ、日中立ち上がり動作あり抑制ベルト使用していました。インフルエンザ・コロナウイルス罹患し、吸引も行っていました。蜂窩織炎も起こし、抗生剤での治療行いました。食思不良あり、補食や持ち込み食を摂取している時期もありました。リハビリ終了し 2 月下旬、自宅退院の運びとなりました。

【退院後、ご自宅での経過】

初夏号でお伝えした通りご自宅での生活を安定して過ごされておりました。7 月頃より誤嚥による発熱あり、往診医より抗生剤の投与にて一時的に改善するも、むせやすい状況続いていました。8 月中旬にも発熱し、当院搬送されましたが、入院治療拒否し、自宅での療養を希望されました。8 月下旬に再度発熱し、呼吸状態悪化。往診医より IC 行い、自宅での療養を決意され、吸引・酸素・エアマット導入。安楽に過ごせるよう介入させていただきました。9 月 1 日眠るように自宅で逝去されました。妻・長男とともにエンゼルケア行いました。家が好きな人だったので家で最期が迎えられて良かったと話されていました。



経管栄養等の点滴等の医療処置以外にも、体調管理やお薬チェック、ご家族様の介護支援等、様々なことで対応できます。訪問看護からの訪問リハビリも実施しています。